

◆令和4年1月1日(土)の三重ふるさと新聞に、令和3年12月14日(火)に三重大学で行われました、12月例会(一般公開)の記事が掲載されました。

三重ふるさと新聞 R4.1.1

初代WHOアジア・太平洋環境保健センター所長

# 三重大学の朴副学長が

## 都市環境ゼミナールで講演

12月14日、「都市環境ゼミナール」II伊藤達雄会長IIが三重大学で公開セミナーを開いた。

同ゼミナールは昭和47

年7月、三重大で行われた全国初の公開講座「都市環境デザインの理論と実際」の受講者有志が中



講師の朴さん

界保健機関) アジア・太平洋環境保健センター(WHO ACE)所長に就任した朴恵淑さん。

心となり、翌48年1月20日に設立。より良い都市環境の創造に向けた学習や研究に産官学の有志で取り組み続けている。

今回の講師は、同大学特命副学長(環境・SDGs)で、令和3年10月15日付で初代WHO(世

テーマは「COP26(グラスゴー気候合意)報告書」気候危機とカーボンニュートラル社会了。

朴氏は「国連の会議は総論賛成各論反対で国の利害関係が出やすい。だからといって無意味ではなく、そういう過程の中で、いかにして自分の国を高めて環境問題での存在感を示し、問題解決のトップランナーとして取り組んでいくことが周りに回って経済や社会にパランスの取れた視点が得

られる。SDGsが語られることが増えたが、日本の知恵、真面目さを生かしていけば世界のトップランナーとして走っていける」と語った。COP21のパリ協定書では初めて努力目標として世界の気温上昇1.5℃を打ち出したが、COP26では、それを明確な目標として定めたことや、二酸化炭素の排出枠を国家間の金銭取引で行うカーボンプライシングについても解説。更に四日市公害や三重県内でのレジ袋削減の取り組み、三重大学の環境やSDGsへの取り組みなども紹介。カーボンニュートラル社会の実現に向け氣勢を上げた。